

【小学校の部】 優秀賞

鶴崎おどりがつないでくれたもの

大分市立鶴崎小学校 6年
吉田 美音



私と鶴崎おどりは、深いつながりを持っています。鶴崎おどりは、私と地域の方をつないでくれました。私は、地域の方に支えてもらいながら、今も鶴崎おどりをがんばっています。

私は、1年生の時に鶴崎おどりを習い始めました。鶴崎おどりは、永禄3(1560)年頃、京都から白拍子を招き、大友そうりん公の御前でおどらせたのが始まりと言われています。大正13(1924)年、「鶴崎おどり保存会」が結成されて、それ以降、毎年8月20日前後の土曜日・日曜日の夜にかいさいされている「本場鶴崎おどり大会」に、私は1年生の時から参加しています。おどりには、2種類あります。それは、「猿丸太夫(さるまるだゆう)」と「左衛門(さえもん)」です。「猿丸太夫」は、江戸時代に伊勢に行った人たちが、「伊勢おどり」を覚えて帰り、アレンジして鶴崎でおどり始めました。これが鶴崎おどりの中心となっている「猿丸太夫」の始まりと言われています。ゆっくりとしなやかな手先や動きが特徴で、見る人を引きつけます。「左衛門」は、テンポが速くてリズムが良いのが特徴です。そして、地域の方たちは、日々、おどりや歌の練習を重ねて、子や孫たちの世代に伝統を伝えてくださっています。

私は、3年生のはじめの頃、教えてくださった地域の方に、こう言われたのを今でも覚えています。

「この鶴崎おどりを、もっと、もっと、みんなに伝えていこうね。」

という言葉です。私は、その言葉を受け止めて、妹や友達に鶴崎おどりを教えています。私は、いっしょにおどってきた仲間や地域の人と、おどりの練習をがんばっています。家族からも、

「6年間、がんばってね!応援しているよ。」

と言われました。この応援してくれている気持ちがうれしいです。

こうして、私は鶴崎の地域の方、家族、友達に支えられながら、日々、鶴崎おどりの練習をがんばっています。年下の子へつないでいくためにも、がんばっています。私は、鶴崎おどりを始めたことで、鶴崎おどりや地域の方、友達などと、もっとつながりを深めることができたことに感謝しています。これからも、後に伝えていくためにがんばりたいです。

